

■ 概況

4/27～5/10のNYMEX・WTI先物市場は68.56～76.78ドルの範囲で推移した。

5月11日は、中国の4月の消費者物価指数、米国の週間雇用統計がいずれも市場予想を下回る低調さで、先行き景気後退懸念が高まり、続落した。6月物は前日比1.69ドル安の70.87ドルで取引を終えた。

週末12日は、米国政府の債務上限問題をめぐる経済不安の高まりで、3日続落した。イラク石油相の次回6月4日のOPECプラス会合における減産据え置き観測発言も値下がり要因となった。6月限は0.83ドル安の70.04ドル。

週明け15日は、米国の景気後退懸念が後退、債務上限問題も解決の観測で、買い戻しの動きが高まり4営業日ぶりに反発した。米国戦略石油備蓄（SPR）補充の動き、カナダ・アルバータ州での山林火災も、上昇要因となった。6月物は1.07ドル高の71.11ドル。

16日は、米中の経済指標の低調さ、米国の債務上限問題など背景に、景気後退懸念が再び拡大、反落した。米国株式市場の低下も、値下がり要因。ただ、米国戦略備蓄の積み増しの動き、国際エネルギー機関（IEA）の本年需要見通しの上方修正があり、下値は重かった。6月物は、前日比0.25ドル安の70.86ドル。

17日は、前日のIEA需要見通しの上方修正に加え、債務上限問題の解決観測の高まりで、反発した。ただ、米国の原油在庫が市場予想に反し、積み増しになったことで、上値は抑えられた。6月物は、前日比1.97ドル高の72.83ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（6月渡し）は、4月27日～5月10日の間、75.40～80.00ドルの範囲で推移した。5月11日76.20ドル、12日74.00ドル、15日73.30ドル、16日74.60ドル、17日73.50ドルで推移した。

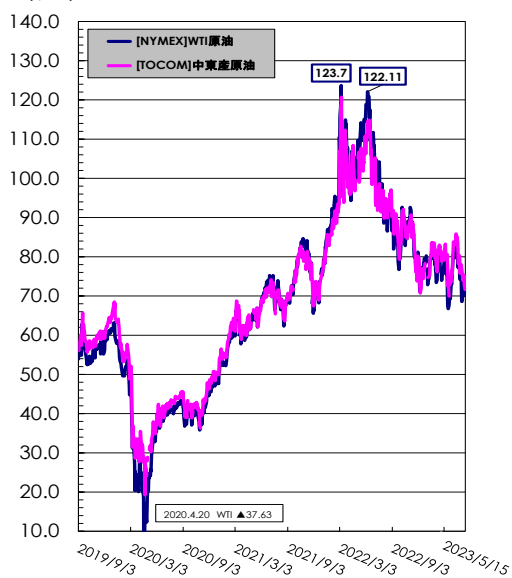
為替は、4月27日～5月10日の間、133.72～137.67円の範囲で推移した。5月11日134.18円、12日134.63円、15日136.05円、16日136.05円、17日136.49円で推移した。

財務省が5月18日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月下旬の原油輸入平均CIF価格は、69,672円で、前旬比799円高、ドル建て83.29ドルで前旬比0.24ドル高、為替レートは1ドル/132.99円だった。また、4月の原油輸入平均CIF価格は、69,356円で、前月比3,067円安、ドル建て83.42ドルで前月比1.93ドル安、為替レートは1ドル/132.18円だった。

そのような中で、5月15日時点の価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は同2円の値下がり（18リットルベース）であった。ガソリンは4週ぶりに値下がり止まり、軽油は4週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりとなった。ガソリンの全国平均価格は167.8円であった。また、次週も燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は10.5円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/7 ~ 5/13	2,926 ▼ -17	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.9 ▼ -0.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/13	10,866 ▼ -276	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	5/15	71.62 ▼ -2.33	▼ -31.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/15	71.11 ▼ -2.05	▼ -43.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	83.29 ▲ 0.24	▼ -24.89
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	69,672 ▲ 799	▼ -13,895
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	132.99 ▼ -1.14	▼ -10.18
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/15	137.05 ▼ -0.91	▼ -6.40

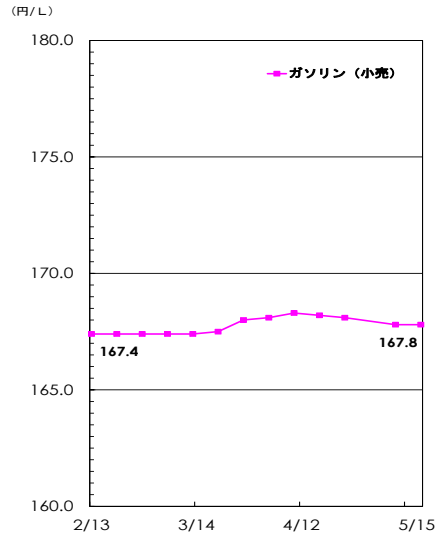
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/7 ~ 5/13	870 ▲ 2	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	784 ▼ -88	▲ -	
	輸出	"	24 ▼ -38	▼ -	
	在庫	5/13	1,685 ▲ 63	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/9 ~ 5/15	73.3 ▼ -0.1	▼ -0.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/9 ~ 5/15	73.0 ➡ 0.0	▼ -1.0
		(TOCOM/中部)	5/15	73.5 ▼ -1.9	▼ -2.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/15	167.8 ➡ 0.0	▼ -2.6	

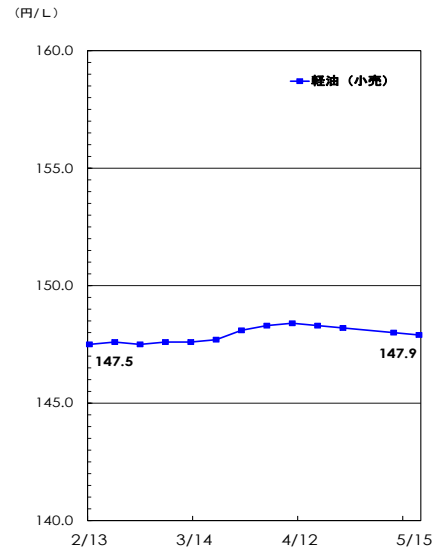
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

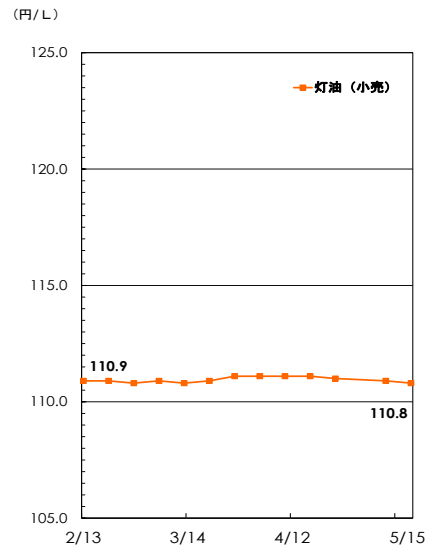
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/7 ~ 5/13	712 ▲ 42	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	623 ▲ 227	▲ -	
	輸出	"	48 ▼ -74	▼ -	
	在庫	5/13	1,529 ▲ 40	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/9 ~ 5/15	73.5 ▼ -0.1	▼ -2.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/9 ~ 5/15	76.6 ▼ -0.3	▼ -13.5
		(TOCOM/中部)	5/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/15	147.9 ▼ -0.1	▼ -2.5	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/7 ~ 5/13	106 ▼ -58	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	52 ▼ -16	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -6	➡ -	
	在庫	5/13	1,406 ▲ 54	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/9 ~ 5/15	73.7 ▼ -0.1	▼ -1.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/9 ~ 5/15	75.0 ➡ 0.0	▼ -1.2
		(TOCOM/中部)	5/15	74.8 ▼ -1.5	▲ 0.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/15	110.8 ▼ -0.1	▼ -1.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(5月11日～17日)のWTI石油先物市場は、11日の70.87ドルで始まったが、景気拡大期待・IEAの需要見通しの上方修正・金利引き上げ打ち止め観測等を上げ要因、景気後退懸念・金融システム不安等を下げ要因として、方向感覚を欠く、不安定な動きを示した。5月17日の終値は72.83ドルであった。

5月17日発表の12日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比500万バレル増と、市場予想に反する積み増し、ガソリン在庫は140万バレル減と取り崩しだった。

EIAによると、5月15日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比0.3セント値上がりの1ガロン3.536ドル(127.9円/ℓ)と4週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.5セント値下がりの1ガロン3.897ドル(140.9円/ℓ)と4週連続の値下がり。

ペーカーヒューズ社によると、5月12日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比2基減の586基と2週連続の減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年5月7日～5月13日に休止したトッパー能力は33.2万バレル/日で、前週に対して3.7万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は292.6万klと、前週に比べ1.7万kl減少。前年に対しては6.4万klの減少。トッパー稼働率は78.9%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては1.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.3%増、ジェット/0.0%減、灯油/35.4%減、軽油/6.3%増、A重油/23.6%増、C重油/12.0%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は4.8万kl(前週比7.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は78.4万kl(対前週10.1%減)と2週振りに減少した。ジェット12.2万kl(対前週107.8%増)、灯油5.2万kl(対前週23.5%減)、軽油62.3

万kl(対前週57.3%増)、A重油21.2万kl(対前週208.3%増)、C重油19.2万kl(対前週125.8%増)。

(単位:千kl)

	今週 (5/7 ~ 5/13)	前週 (4/30 ~ 5/6)	前週比
ガソリン	784	872	▼ -88 (-10%)
ジェット燃料	122	59	▲ 63 (107%)
灯油	52	68	▼ -16 (-24%)
軽油	623	396	▲ 227 (57%)
A重油	212	69	▲ 143 (207%)
C重油	192	85	▲ 107 (126%)
合計	1,985	1,549	▲ 436 (28%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月13日時点の在庫はジェット、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは168.5万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては3.0万kl少ない。

灯油は140.6万kl、前週差5.4万kl増。前年に対しては10.2万kl多い。

軽油は152.9万kl、前週差4.0万kl増。前年に対しては11.0万kl少ない。

A重油は71.4万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては0.7万kl少ない。

C重油は195.4万kl、前週差7.1万kl増。前年に対しては20.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (5/13)	前週 (5/6)	前週比
ガソリン	1,685	1,622	▲ 63 (4%)
ジェット燃料	826	870	▼ -44 (-5%)
灯油	1,406	1,352	▲ 54 (4%)
軽油	1,529	1,489	▲ 40 (3%)
A重油	714	738	▼ -24 (-3%)
C重油	1,954	1,883	▲ 71 (4%)
合計	8,114	7,954	▲ 160 (2.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月9日～15日のドル建て中東原油価格は値下がりし、為替レートは横ばいで、元売会社の円建て原油コストは、1.0円値下がりしたものと見られる。上記コストに先週の補助金額14.1円を加え、今週の補助金10.5円を差し引いた、5/18～5/24の実質的な元売会社の卸価格は2.6円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月9日～15日の製品スポット市況は、5月2日～5月8日平均と比べ、灯油と軽油の海上取引が値上がり、ガソリンと灯油の先物取引が横ばい、その他の取引・油種で値下がりした。

直近週(5/9～5/15)の陸上スポット価格平均値は、前週(5/2～5/8)比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/9～5/15)に、前週(5/2～5/8)比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.3円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (5/9～5/15)	前週 (5/2～5/8)	前週比
スポット価格	レギュラー	73.3	73.4	▼ -0.1
	灯油	73.7	73.8	▼ -0.1
	軽油	73.5	73.6	▼ -0.1
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (5/9～5/15)	前週 (5/2～5/8)	前週比
先物価格	レギュラー	73.0	73.0	➡ 0.0
	灯油	75.0	75.0	➡ 0.0
	軽油	76.6	76.9	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/9～5/15実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.1	➡ 0.0	➡ 0.0
灯油	▼ -0.1	➡ 0.0	➡ 0.0
軽油	▼ -0.1	▼ -0.3	▼ -0.2
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの167.8円、軽油は0.1円安の147.9円、灯油は18%ベースで2円安の1,994円(1%ベースでは0.1円安の110.8円)。ガソリンは4週ぶりに値下がり止まり、軽油は4週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは17道府県、横ばいは4県、値下がり26道府県だった。全国最安値は岡山県の161.6円、その次は埼玉県の162.0円であった。他方、最高値は長崎県の177.7円だった。最も値上がりしたのは宮城県(前週比1.8円高)、横ばいは愛媛県など4県、最も値下がりしたのは愛知県(同1.3円安)だった。

次回調査時(5/22)のガソリンの小売価格は、横ばいもしくは小幅な値動きが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (5/15)	前週 (5/8)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	167.8	167.8	➡ 0.0	08/8/4 185.1
	灯油	110.8	110.9	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	147.9	148.0	▼ -0.1	08/8/4 167.4

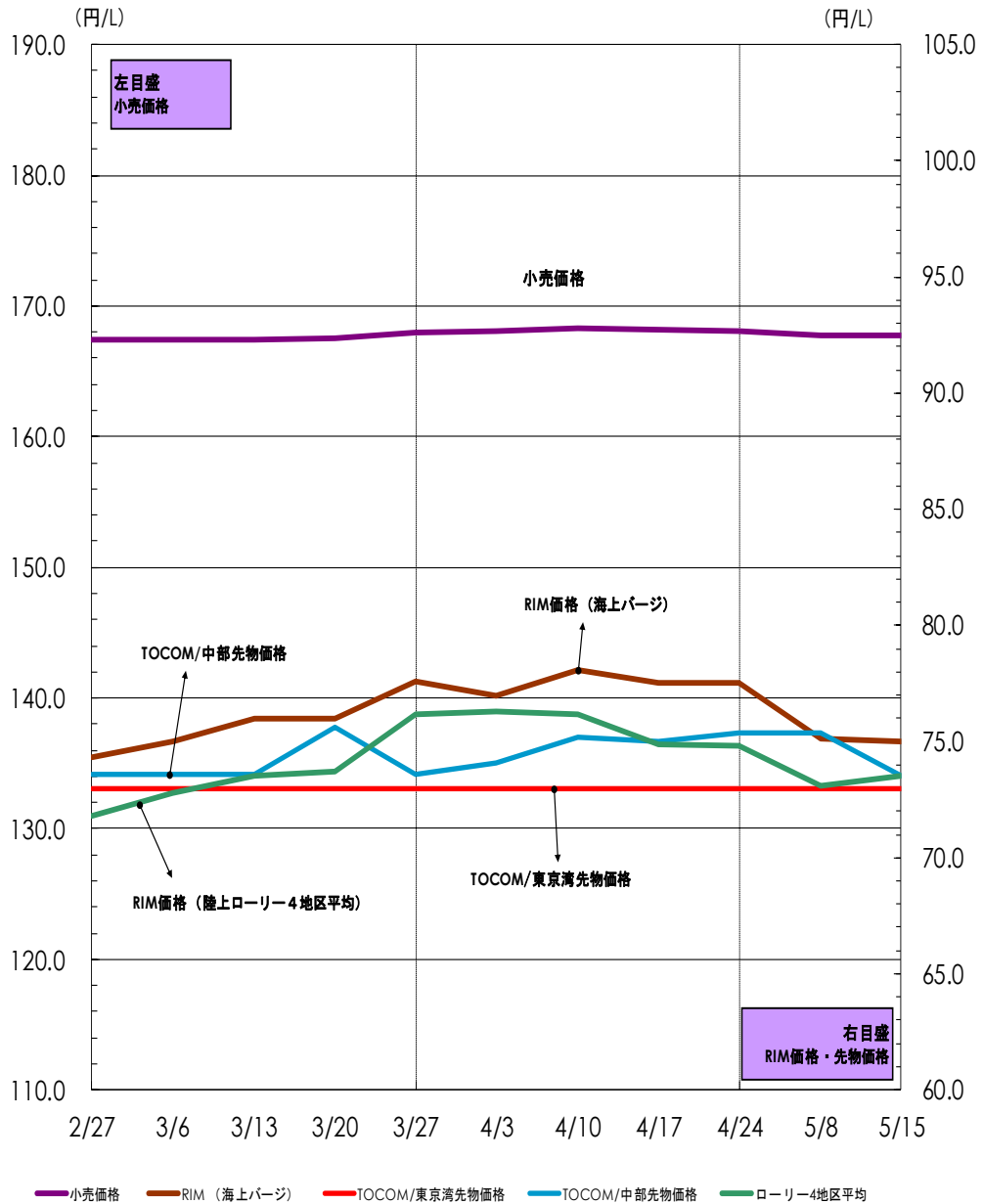
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/2/27 ~ 2023/5/15)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2023第7号)の公表は、5/26(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。